

首都大学東京オープンユニバーシティ

高校生向け特別講座 大学で何を学ぶか？

講座名 **大学で何を学ぶか？** 進学を目指す高校生の皆さんへ

出席者 首都大学東京 人文社会学部 **西山 雄二** 准教授、経済経営学部 **水越 康介** 教授
首都大学東京 大学教育センター 兼 高大連携室長 **河西 奈保子** 教授

受講料：無料（1回）

定員：30名

対象者：高校生限定（受講当日、学生証を提示していただきます）

場所：飯田橋キャンパス

8月2日(金)13:00～16:00

講座コード 1921Z004

高校生の皆さんが
考えた事を
積極的に
発言してみよう！

自分は大学で何を学びたいのか。どのような視点で進路を選べばよいのか。大学での学びにふれながら、自分の興味を深めることで、学問を人生にどう生かすか、その先の将来にどう繋げていくかヒントをお伝えします。

～この講座でお伝えしたいこと～

- 様々な情報に溢れている世の中で大事なことは、何が本質であるかを自分で考える力と行動する力である
- 大学は、高校までのように教室に座っていれば教えてもらえる場所ではなく、自ら自分の考える力を伸ばす場所である
- 一つのきっかけとして、人間とは何か、人生とは何であるかという問いについて一緒に考えたい
- 理系にしる文系にしる、その基本5教科がバランスよくしっかり学んでいることが大切。研究の最先端ではボーダーレスになっている
- 日本はかつて経験したことのない様々な困難に直面している。この困難な状況を打開しすべての人間が尊厳をもって生きる社会を創りあげるのは、正義感と倫理観に裏付けられた、力強くてしなやかな若い知性をおいてほかならない。



みずこし こうすけ
水越 康介
首都大学東京教授
経済経営学部

マーケティングを大学で学ぶ意義

マーケティング論は、経営学や商学の一つです。製品開発や広告のやりかた、あるいは市場調査の方法などさまざまな研究蓄積があります。私たちはすでに消費者でもありますし、社会人になれば、おそらく大なり小なり経営やマーケティングに携わり、実際に経験することになります。大学で先じてマーケティングを学ぶということに、どういう意味があるでしょう。

大学でマーケティング論や経営学を学ぶことの意義は、これらが単にビジネスのためにあるわけではない、ということを知ることにあります。マーケティング論や経営学の可能性について、少し広く考えて説明します。



経営学



にしやま ゆうじ
西山 雄二
首都大学東京准教授
人文社会学部

「哲学すること」の教育的意義

私が所属している人文・社会系では、さまざまな文化圏の研究・教育が行われています。せまい日本だけの価値観にとらわれずに色々な国から多様な価値観を学んで、柔軟な人間力をつけることができるのです。

私はフランス語圏文化論の研究を専門にしています。学生の皆さんとフランスに滞在し、フランスという国の価値観に直接に触れる機会もあります。これらが「人生が変わるほどの経験」になる場合も少なくありません。興味があれば、ぜひ一緒に学んでいきましょう。

※先生方と直接お話ができます。

お申し込み方法 会員でなくてもお申込みいただけます。

申込受付開始日：6月5日(水) 9時～

- 電話 03-3288-1050 (飯田橋キャンパス)
- FAX 03-3264-1863 (飯田橋キャンパス)
- インターネット www.ou.tmu.ac.jp/web/
- 首都大学東京オープンユニバーシティ 窓口
(飯田橋キャンパス：平日9時～17時30分)

上記のいずれかの方法でお申込みください。

- ・申込みの受付は先着順となります。予めご了承ください。
- ・申込みは受講者個人ごとに受け付けます。人数だけの複数申込みはできません。
- ・申込み時に、受講を希望する講座の講座コード（複数申込み可）を、明示してください。
- ・開講2週間前に「受講のご案内」を送付します。当日は、「受講のご案内」をご持参ください。
- ・ご住所を勤務先にされる方は、「会社名・部署名」を明示してください。（「受講のご案内」が届かない場合がございます）